

— 特集2 — 人と地域のつなげ方

インターネットが普及し、世界中の距離が無くなったともいわれる時代。いつでも情報を収集でき、デジタルで誰とでも繋がることのできるなか、今、求められているのはリアル<現実>の体験や繋がり。街なかや中山間部で、想いをもちながら人と地域を繋げる活動を続ける皆さんに話を聞きました。



— 志津川 —
 ♪カレーライスクラブ。聞きなれない言葉をもとに取材に行くと、すでに田植えを終えて泥だらけの子どもたちが、梅雨の合間に見えたお日様の下でじゃがいもを収穫していました。この取組みの発起人は島田達也さん(志津川)。カレーライスクラブは、子どもたちが栽培した野菜でカレーライスを作って食べるシンプルな取組み。しかし、そこには多くの想いが詰まっています。

「使っていないかった農地をどうにか有効活用できないかと考え、近所の人に声をかけたのがきっかけです。この取組みを通して地域連携ができ、子どもたちの顔を知ること、防犯対策にもなる。普段調理されて出てくる野菜が、どのように実るのかを知ること、食育にも繋がると思っています」と話してくれた島田さん。調理を取り仕切るのは、『なべさん』の愛称で皆に親しまれている鍋島道隆さん。「手で田植えをする機会が今の子どもたちにはなかなか無いので、いい経験になります。ここに来た子どもたちが親となり、次の子ども世代へと、どんどん繋がりを続けてくれれば良いですね」と願いを込めます。

参加した親子は、「畑や田んぼを持っていないので、子どもにとって貴重な経験になり、学年を超えてふれあえるので嬉しい」と話してくれました。完成したカレーを囲む食卓には笑い声が絶えることなく響いていました。



「なべさん」こと鍋島 道隆さん



発起人の島田 達也さん



縁の下の力持ち 松田 豊和さん

完成!!





棚田でおいしいお米づくり
地域住民で構成される井内地区活性化協議会が毎年主催する棚田の田植え体験。田植え後は、井内の棚田米で作ったおにぎりや豚汁が参加者に振る舞われた。



田植え体験
どぶろくオーナー制度の利用者と農家の方が一緒に田植え・稲刈りなどを体験。秋には収穫したお米だけでなく、お米から作ったどぶろくもオーナーにお渡しする。

「食味鑑定士協会」主催のすし米コンテストで大賞を受賞した井内の棚田米でどぶろく「ながい」を製造する永井公一さん（井内）。棚田の面積は狭く、収穫は少量ですが、昼夜の寒暖差で美味しいお米が実ります。

井内地区では、外からの誘客に力をいれており、最近では、牡丹まつりや棚田の田植え体験を開催。「不便な場所は、言ってみれば、昔ながら」が残っているとこ。復古創新の気持ちで、地域に埋もれている宝物を掘り起こしていくことが大事と思っています。先人が残してくれた棚田を後世に残していくためには、6次産業化などで生業^{なりわい}をつくり、住む人や移住者がビジネスを始められる環境を整える必要があります。地域が持続していく仕組みを考えたいですね」。そう静かに語る目には、地域の未来を願う気持ちが込められています。

「下林」
エコファーマー認定を持つ藤井省三さん（下林）は、環境に優しい米づくりを進めています。「コッはゆっくり時間をかけて、一つひとつの作業を丁寧に行うことですね」

藤井さんは、奥さんの由紀枝さんと、全国どぶろくコンテストで最優秀に輝いたどぶろく「由紀っ娘物語（中辛）」の製造に加え、農家レストラン「由紀っ娘」の経営も行います。由紀枝さんは、愛媛県農山漁村生活研究協議会の顧問を務め、会長時代には愛媛の郷土料理をまとめた本を出版。「気張ったものではなく、あるものでふるさとの味」をつくる。先人たちの知恵や技術を後世に繋げていきたいです。そう話すお二人が、6月2日に（どぶろくオーナー制度）で田植え体験を開催。当日は、大人、子どもと一緒に田んぼに入り、お昼には手作りのお弁当といもたきを食べ、地域の繋がりを感じていました。



どぶろく工房 農家レストラン「ばたん茶屋」
永井 公一さん



とうおん桜
どぶろく「ながい」の製造10年目の節目に東温市の市花である桜の名がつくどぶろくを製造。100%日本のお米でできた紅麴で着色し、秋田県熊代市のソメイヨシノから酵母をとった秋田美桜酵母を使用。酸味が少なく、すっきりとした味わい。今年の1月に行われたお披露目会では、どぶろく「ながい」をまるまる一本使ったばたん鍋とともに振る舞われました。



どぶろく工房 農家レストラン「由紀っ娘」
藤井 省三さん・由紀枝さん



ほっこりする味わい
若い人たちにもどぶろくに興味を持ってもらいたい。そんな思いでどぶろくプリンや甘酒などの加工品の製造を始めたそうです。はな由紀はきれいな桜色で酸味があり、爽やかな味わい。きれいな桜色を出すためには温度管理が重要。ワイン感覚で食前酒にピッタリ。

